

ひとまち

伝統を守る、保存会&自治会

毎年、成人の日の前日に行われている「南大塚の餅つき踊り」。県指定無形民俗文化財であるこの祭りは、二百年以上の歴史を持つ伝統行事です。

市内各所で行われている伝統行事に共通している悩みが後継者不足。南大塚地区では、時代に合わせて祭りを変化させるとともに、餅つき踊り保存会と南大塚自治会が協力して、伝統行事を守っています。

南大塚の餅つき踊りは、「ひきづり餅」「接待もち」とも呼ばれています。大正時代までは7歳の祝いである旧暦11月15日の「帯解きの祝い」に行われてきました。このころは自宅の庭で餅をついて近所に配り、自宅から餅をつきながら菅原神社まで白を引きずって行き、神社に奉納していました。大正末期から第二次世界大戦ごろにかけて中断したものの、戦後再開され、その後は南大塚全体の祭りとして実施するようになりました。帯解きの祝いから成人の祝いへと変わり、成人の日である1月15日に実施することに。餅をつく場所も、個人の家から西福寺境内に変わりました。餅つき踊り保存会が主催し、南大塚自治会が支えるという形は、このころできあがりました。



歌に合わせて、曲芸を交えたりして餅をつくこの行事は、いかに魅せるつき方ができるかがポイント。写真は昨年12月に行われた川越あさひ幼稚園での餅つきの様子。市内どこへでも出張するそうです。



④12:42



②10:29



①9:30



⑤12:52

①自治会メンバーが看板などを設置 ②保存会・自治会の皆さんのために60人分のうどんを用意 ③保存会で用意したまきを使ってもち米を蒸す ④最初の餅つきがスタート ⑤参加する中学生に指示 ⑥つきたての餅を手早く分ける ⑦ふるまい餅を参加者に配る ⑧来年参加予定の小学生が餅つき体験 ⑨自治会役員が先導し白を引きずりながら隣の菅原神社へ ⑩行事が終了し後片づけ



③11:37



⑦14:01



⑥13:10



⑧14:29



⑩15:07



⑨14:39

地域の新成人を招待し、祝う行事として定着していた南大塚の餅つき踊り。ところが平成10年、成人の日が1月の第二月曜日になったことなどで、年々来る成人が少なくなりました。そこで、平成15年から地域で新年を祝う行事に変更しました。現在では保存会の後継者育成も兼ねて、小学6年生を招待しています。餅つき踊り保存会の宮澤辰雄会長（71歳）は「昔から住んでいる人だけでなく、新たに南大塚に住むことになった人にも参加してほしいですね」。南大塚自治会の宮澤邦夫会長（67歳）は「保存会が行事に専念できるように、裏方として支えています。住んでいる人なら誰でも参加できる地域の祭りという伝統を、これからも支えていきたいです」。時代に合わせた行事が変わっても、伝統を守る気持ちは変わりません。

力士の話でスタート



1月8日、蓮馨寺で初呑龍が行われました。毎月8日の「呑龍デー」は、フリーマーケット・出店・

芸能などがあり、境内は活気に満ちあふれます。今年最初の汁講釈では、宝井琴梅さんが「辰年を占う」と題して、演目を披露。力士が置き引きに遭うという話で、観客の笑いを誘っていました。



今年を占う小豆がゆ



朝日が昇ろうとする1月15日の早朝、今年一年の作柄と天候を占う「筒がゆの神事」が石田藤宮神社で行われました。大釜で煮た小豆が



ゆに18本のヨシツツを束ねて入れ、ヨシツツの中に入った米粒を数えて占います。結果は平年よりやや不作。また、この小豆がゆを食べると、虫歯にならないとか。参加者の皆さんは、温かい小豆がゆを大事そうに食べていました。

ひとまち ふおとニュース



行って 会って 体験
気になるイベントや人を紹介

小江戸ある寺



川越蔵の会・馬場さん(右)の説明に聞き入る学生の皆さん

NPO法人川越蔵の会は、このたび、川越市の重要伝統的建造物群保存地区内にある薬師神社の実測調査を行うことになりました。伝統的建造物の特定に欠かせない、平面図・立面図・断面図・展開図などを作成するのが目的です。この作成にあたり、同会では大学生にも参加してもらっています。同会は、学生に限らず市民の皆さんと一緒にまちづくり活動をする団体。今回は、川越を題材にした卒業論文を書き、修士論文も川越を題材にしようと考えている浅川達也さん(23歳)、大学で建築を学んでいる大友朝子さん(21歳)・原崇之さん(20歳)が参加。三人とも設計の勉強はしているものの、



一つ一つメジャーで測り数値を記入します

「見ているだけでは分からない歴史的価値や建築した当時の職人の思いに気づいてほしいですね」と話すのは、今回の実測調査の責任者・守山登さん(40歳)。同会の市民と共に行うまちづくり活動は、これからも続きます。



今回測量した川越蔵の会の皆さんと参加した学生の皆さん(前列の3人)

歴史を知り、つなげていくために

実測して図面を書くことは初めて。原さんは「川越を知る良い機会になりました」。「調査を実体験できてよかったです」と大友さん。浅川さんは「つながりができてよかったし、少しは川越のまちづくりに役立てたと思ううれしいです」。指導をした馬場崇さん(38歳)は、「古い建物を知るための手がかりとして、このような実測調査があることを知ってほしいですね」。